

# 認知症初期集中支援チームについて

## ◆目的

認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族に初期に訪問等で直接関わり、早期診断、早期対応に向けた支援体制を構築する。★「初期」とは認知症初期」と「対応初期」の意味を持ちます。

## ◆対象

- ・40歳以上で、在宅で生活し、認知症（疑いも）の人で、適切な医療や介護サービスに結びついていない人。
- ・医療や介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応が困難な人。

包括の総合相談として対応できるものを除きます。

## ◆体制

直営とし、事務局を市高齢者支援課に置く

## ◆チーム員

- ① 認知症サポート医（脳神経外科医、精神科医）
- ② 医療職と介護・福祉職のペア

高齢者支援課、地域包括支援センター

認知症地域支援推進員、精神科病院看護職・福祉職

各場面で必要に応じ専門職に助言、本人への診察、訪問、主治医との連絡

支援対象者に合ったチーム員各所属から2名以上で構成

## ◆特徴

- ・6か月間をめぐりに集中的に関わり、医療や介護サービスにつなぐ
- ・チーム員による身体的ケア、環境整備等の直接支援ができる
- ・力を尽くしても受診できないような場合はチーム支援が有効

どうしても医療や介護につながらない認知症の人のセーフティネットです。

## ◆認知症初期集中支援チーム検討委員会

年1回開催、石狩市介護保険事業運営推進協議会をあてる

- ・協議事項：チーム運営状況の報告、改善策の検討など

# 令和元年度 認知症初期集中支援チーム実績

## 【実績】

相談：1件（地域包括支援センターが総合相談として対応）

チーム支援：1件（平成30年度からの継続事例）

費用：20,000円（認知症サポート医による訪問1回）

## 【対象者】

- ・80代在宅独居、女性、要介護2
- ・認知症（疑）の行動・心理症状

「タクシーや徒歩で外出し自力で帰宅できない」「預貯金を一人でおろすことができない」「食品を適切に管理できない」「毎日近隣宅に長居する」など

## 【支援期間】

平成31年3月8日から令和2年4月24日（終結）

## 【相談経路】

平成30年11月、民生委員から地域包括支援センターに相談があった。同時期に他機関からも、本人を心配する情報提供が相次いでいた。包括の主任介護支援専門員と保健師が訪問を重ねたが、本人の拒否もあり必要なサービスにつながらず、市と協議を経てチーム支援の対象と判断した。

## 【チーム員】

認知症サポート医、市保健師、市社会福祉士

## 【訪問により把握した生活上の課題】

道迷い、食品管理、金銭管理、近所づきあい、調理、買い物、入浴、予定管理など日常生活全般に支障あり。

## 【チーム員会議】

日時：令和2年1月28日

参集者：市（保健師、市社会福祉士）包括（主任介護支援専門員、保健師）

支援計画：要介護認定更新申請、成年後見制度市長申立てに必要な受診支援、道迷いへの対応、グループホーム入居に向けた調整

## 【訪問回数】

自宅訪問 23回

状況説明や協力依頼のための地区巡回訪問 29回

## 【チーム支援の結果】

- ・令和2年2月17日 市内グループホーム入居
- ・令和2年3月31日 成年後見制度申立て
- ・チームとして複数の職種や機関で訪問を重ねることで、認知症進行の度合いや日常生活の困りごとに沿った支援ができた。
- ・親族、民生委員、近隣住民とチーム支援の目的と経過を共有、役割分担することで、本人にとって違和感の少ない支援が可能となった。

## 【運営上工夫した点】

- ・チーム員以外の市職員や包括職員とも常時情報共有し、急な対応に備えた。
- ・地域に点在する本人の立ち寄り先との情報共有、連携に努めた。